

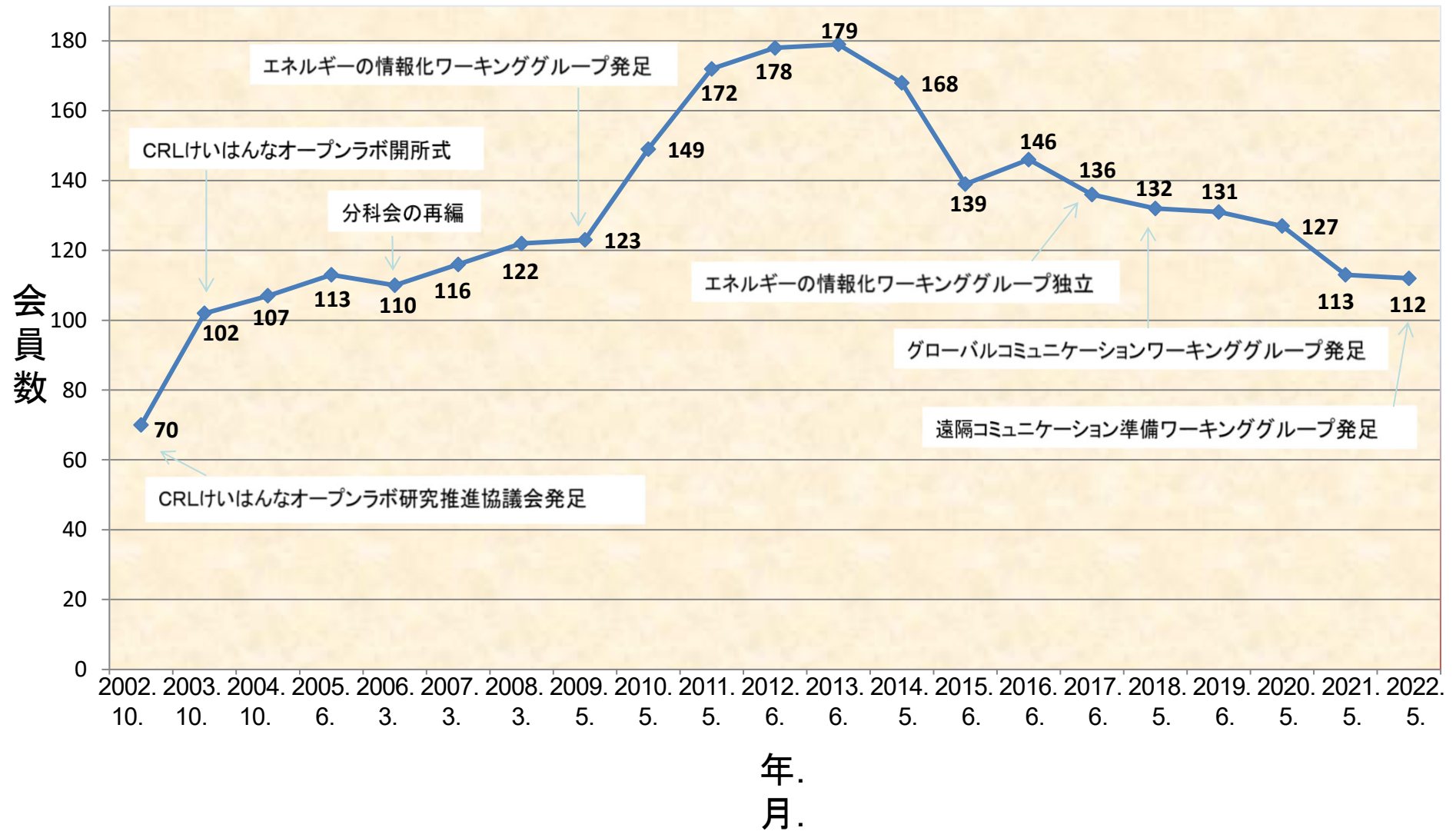
第22回 運営・研究部会
2021年度活動報告・2022年度活動計画、
および、オープンラボ利用状況

2022年5月20日

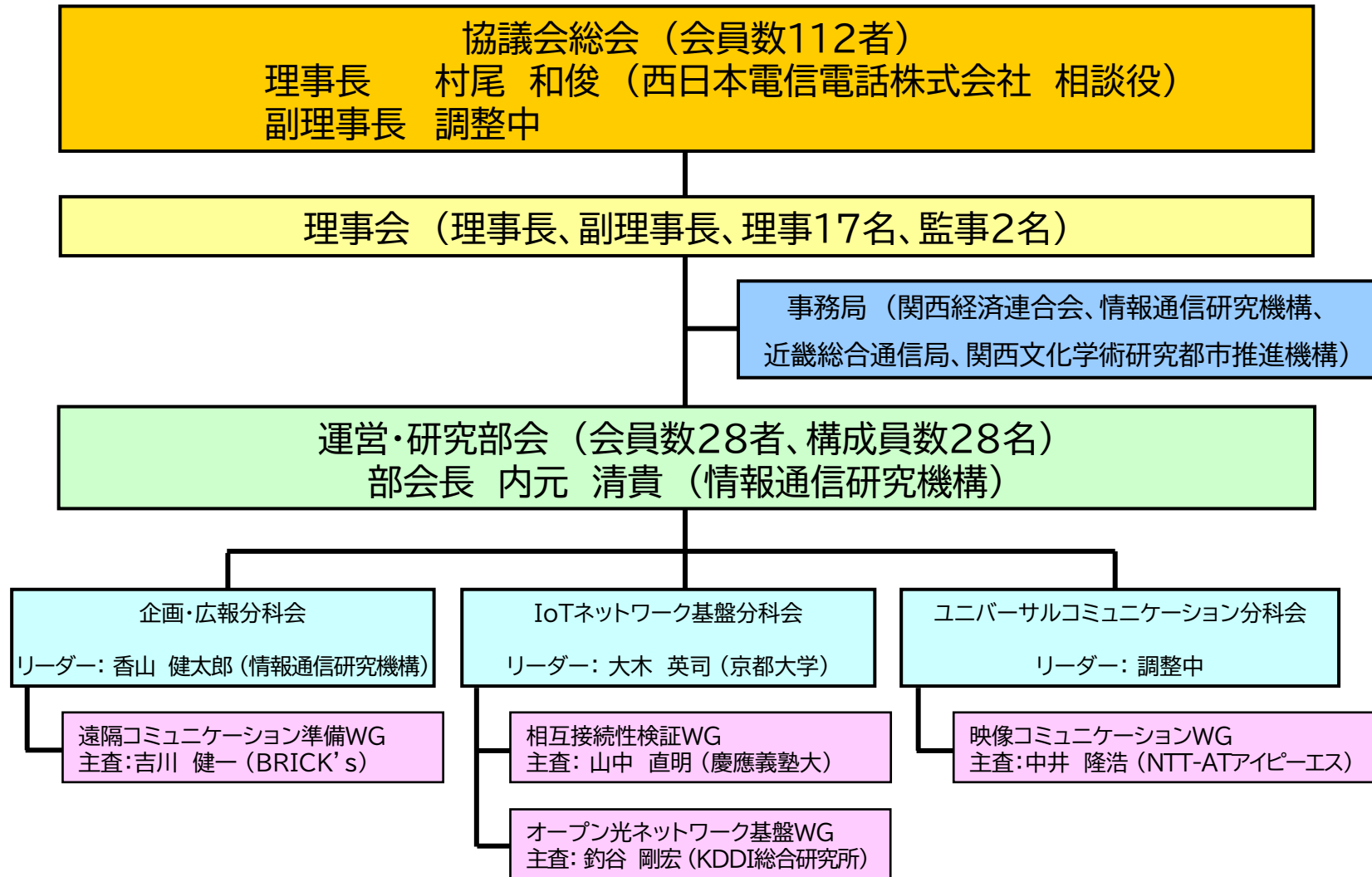
2021年度活動トピックス

- 第20回総会については、コロナ禍の中対面での開催が困難であったため、オンライン開催とした。総会では、2020年度活動報告案および決算案、活動支援費を増額してWG活動を活性化させることを盛り込んだ2021年度活動方針案および予算案、並びに、新たな理事長として西日本電信電話株式会社相談役村尾和俊様をお迎えする役員変更案について決議がなされた。議事に続き、特別講演として、日本電信電話株式会社 研究企画部門IOWN推進室長である川島正久氏より、「Beyond 5Gに向けた新たなネットワーク構想『IOWN』」という題目でご講演をいただいた。
- けいはんなR&Dフェア2021(11月11日-13日)はオンライン開催となったため、ブース展示はできなかったが、オンラインで実施された展示およびショートプレゼンに、「8K分身通信(遠隔身体拡張通信)」を出展、パネル等で研究活動紹介を行った。
- けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム「遠隔コミュニケーション技術がもたらす、新たな社会的価値の創出」をオンラインで開催(2022年2月25日)、コロナ禍の中ニューノーマルとなりつつある遠隔コミュニケーションを可能とするXR技術と音声翻訳技術、及び、その接点に着目し、これらの技術がもたらす新たな社会的価値の創出について、産業界の第一線企業よりご講演をいただいた。

会員数の推移



けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会体制図



分科会参加状況（2022年3月末現在）

IoTネットワーク基盤分科会	
分科会（のべ人数）	35
相互接続性検証WG	25
オープン光ネットワーク基盤WG	10

ユニバーサルコミュニケーション分科会	
分科会	5
映像コミュニケーションWG	5

2022年度活動計画(案)

当協議会は今年度、創立20周年を迎える。コロナ禍は未だ収束せず、遠隔会議によるコミュニケーションが広がり、遠隔コミュニケーションがニューノーマルとなりつつある。今まさに、ICT技術の活用による新たな社会的価値の創出が求められている。このような観点を踏まえ、既存の分科会・WG活動や、イベント・出展等の活動に加え、特に次のページの施策を実施していく。

1) 協議会創立20周年記念イベントとして、記念シンポジウムを企画・実施する

- 記念シンポジウムのテーマ(検討中の例)
 - 「ICTの過去を見据えて未来を展望する」、「ICTの過去の検証と未来予想図」など
- 概要(検討中の例)
 - 創設当時を知る講師を招く
 - 20年前の予想と現在との比較・予想の検証
 - これまでのWGの成果がどのように活かされているか
 - 20年後の未来予想(2025大阪・関西万博の通過点も含めて)

2) 遠隔コミュニケーション準備WGの活動、WGへの格上げ・移行を支援する

- メンバー募集をメールおよび協議会ホームページにて行う

3) WG活性化活動の提案を募集する

- 新規WG設置、既存WG活動加速の構想を募集
- 活動支援費100万円を支給
- 審査の方法、採択基準、採択方法等に関しては、別途事務局で案を作成し、次回の臨時運営・研究部会にお諮りする

2022年度のスケジュール(案)

	2022年度 4月	7月	10月	1月	2023年度 4月
総会	▲ 第21回(オンライン開催)				▲ 第22回(5~6月頃予定)
運営・研究部会	▲ 第22回部会(オンライン開催)				▲ 第23回部会(4~5月頃予定)
分科会	 企画・広報分科会：創立20周年記念イベントの企画と実施、 遠隔コミュニケーション準備WGの格上げ・移行支援、 WG活性化活動の提案募集による産学官連携の推進等  研究系分科会：研究開発プロジェクトの推進等				
出展、シンポジウム等			★ けいはんな R&Dフェア2022 (10/6~7)	★ 協議会主催 シンポジウム	

2021年度オープンラボ施設利用状況

課題名	研究機関	人数	研究概要
自動車運転技能評価技術の開発と運転行動の分析による交通事故防止方策の提案	株式会社 ATR- Sensetech	4	運転行動自動評価システムについて、評価内容の高度化、地点検出の高度化・安定化および映像情報との複合化の技術を開発する。これをもとに運転行動の長時間データの集積をおこない、他の生理情報との複合的分析により行動評価の個人化を進める。
二面コーナーリフレクタアレイ(パリティミラー)の製造方法の確立および応用空中映像システムの開発	株式会社パリティ・イノベーションズ (NICT発ベンチャー)	5	ナノ加工、ナノインプリント等により製造した光学素子の評価を実施する。また、電子回路等の設計、試作をおこない、新しいメディアあるいはユーザインターフェースとしての空中映像応用システムを開発する。
クラウド環境下における各種資源の最適な配備選択方式の研究開発	株式会社 アットフィード	2	オンプレミス環境とクラウド環境で計算資源を遷移するための技術開発と、クラウド間で計算資源を遷移するための技術開発をおこなう。
スポーツ大会における音声翻訳実証実験	株式会社 BRICK's	6	日本で行われる大規模なスポーツイベントでの、音声翻訳の実用、及び電話通訳を行い、課題の抽出を行う。
4	4	17	合計